

2022年度 織田ファッション専門学校 自己評価報告書

作成日 2023年4月3日

はじめに

2022年度の事業計画に対して、その進捗や達成度を確認する観点にて自己点検評価を実施した。

ただし、事業計画の内容の多くは単年度、短期的なものではなく、複数年に亙る長期的な視点での目標、計画である場合が多い。

本学においても、普遍的な課題であったり達成基準の無い目標も多く設定されている。それらに関しては到達という観点ではなく、取り組みに対して真摯であったかどうかを評価の軸としている。

※尚、評価は4～1の数値にて表す。適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切・未実施…1

長期的に本学の教育理念に沿った理想的な学校とするべく、その過程における当年度の1歩について以下に評価を報告する。

学校の理念と教育目標

理念 社会に必要とされる人材を育てる学校そして学生が明るく楽しく学ぶことができる学校を目指します。

目標 ・専門知識と技術力を高め、社会に貢献できる人材を育成します。

・学生一人ひとりの個性を尊重し、将来の夢を実現できるように導く教育を実践します。

・時代の社会環境に応じて教育内容をフレキシブルに対応し就職を意識した実践的な教育を行います。

重点的に取り組んだ目標及び計画等

- ・人間力の向上を目指し、学生の考える力を鍛える。
- ・クオリティーを迫りして基本を再認識し、技術を継承する。
- ・ファッションビジネスの現場で即戦力となるよう実践的なカリキュラムの構築。

1. 教育理念・目標・育成人材像

評価項目	評価	評価内容	課題
理念・目標・育成人材像は、定められているか。	4	理念等はWEBサイト、学生のしおり等を通じて公表し、教職員、学生、保護者等に周知されている。	時代や社会情勢の変化も鑑みながら必要により改訂を検討していく必要がある。
学校における職業教育の特色が明確になっているか。	4	学生に対しオリエンテーションで説明し、周知している。	業界で求められる人材像の変化をとらえながら、職業教育に必要な内容を検討していく。
各学科の教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	各学科は今の業界のニーズに向けて具体的に取り組んでいる。	外部講師や教育課程編成委員会を通じて、業界のニーズを知り、教育目標を決めていく。
学校の教育理念に沿った①アドミッションポリシー ②カリキュラムポリシー ③ディプロマポリシーを設定または改訂できたか。	4	昨年度の学校関係者評価委員会でいただいたご意見を踏まえ、3つのポリシーの再確認を行い、WEBサイトで公開した。	次年度も同様に再確認を行い、WEBサイトでの公開を続けていく。
コメント			
①アドミッションポリシー②カリキュラムポリシー③ディプロマポリシーはそれぞれ既に明文化し公開している。			

2. 学校運営

評価項目	評価	評価内容	課題
教育理念・目標に沿った運営方針が策定されているか。	4	教育理念・目標に沿った運営をしている。	時代に沿った教育理念への見直しも必要。
外部関係者の評価（教育課程編成委員会）を有効に活用できたか。	4	教育課程編成委員会を開催し、意見を参考に学生が卒業後企業等で活躍出来るようカリキュラムを検討・変更を行っている。	多くの参考となるご意見を活用するべく、より具体的に計画を立てて進めてゆきたい。
現場経験のある教員やファッション業界で活躍中の卒業生の活用は促進できたか。	4	ほとんどの教員が現場経験があり、経験を活かし指導している。現場で活躍している卒業生から最近の状況や学生時代のことなどを在校生に向けて話してもらう機会を設けている。	今後も卒業生と連絡を密に取り合い、在校生に向けて現場実践での話を聞く機会をさらに設けてゆきたい。
外部企業等に強い外部講師等は有効に活用できたか。	4	講師より新たに企業とのコラボレーションをコーディネートいただき具体的に授業へ取り入れ進行している。	コロナ禍において激しく変化する社会に対応できるよう現場経験豊富な講師との関係をさらに有効活用していきたい。
学生のニーズは把握できたか。	4	年度末、学生アンケートを実施。「こんな授業を受けてみたい」という設問を通じて具体的な教育ニーズを調査した。	学生アンケートの結果を客観的に分析し、次年度の事業計画へと反映させる検討の仕組みを構築する必要がある。
情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	教員1人1台のPCの貸与や、クラウドワークフローシステム等が整備されている。	学内システムを使用しての申請書類提出や稟議提出などは問題なく機能している。
<p>コメント</p> <p>定期的に外部から意見を聞く機会を設けることにより、具体的に改善すべき事項が見えてきているため、今後は計画的にカリキュラムに取り入れていきたい。外部講師に関しても本校の勤務が長くなるにつれて学生のニーズを把握していただいている傾向があり、積極的に提案をしてくださるので、今後も企業との関わりを重視してよりニーズに沿ったカリキュラム内容を検討していきたい。</p>			

3. 教育活動

評価項目	評価	評価内容	課題
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか。	4	教育理念を基本としたカリキュラム編成がなされている。	今後は企業とより連携して意見を伺い、カリキュラム編成を検討していきたい。
教育カリキュラムは体系的に編成されているか。	4	毎年修正を加えながら体系的にカリキュラムが編成されている。	企業が求める人材を育成するべく、より実践的で時代に沿った技術や知識を学ぶカリキュラム作りを継続していきたい。
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立って、カリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	企業とのつながりが強化されつつあり、今後も実践的な職業教育を継続していく土壌はできている。	今後も実践的な職業教育を継続していきたい。
実践的な職業教育（産学連携教育、インターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	4	企業コラボ・インターンシップを通して実践的な職業教育を実施している。	インターンシップの受け入れは徐々に回復しつつある。今後はより受け入れの機会が増やせるように、企業に働きかけていきたい。
授業評価を実施し、その評価体制はあるか。	4	卒業時における発表等で外部審査員により評価をいただいている。	外部審査員からのご意見をもとにより良い授業内容への改善に繋げたい。
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	成績評価・単位認定の基準は学則に記載されており、明確になっている。年2回成績表を保護者宛に送り、出席も含めて情報共有している。	特になし。
教員の研修・自己啓発は促進できたか。	4	毎年自己研修目標を設定している。年度初日に研修発表をし、校長より評価をいただいている。外部研修（今期はオンライン）に積極的に参加し自己啓発を行っている。	外部への研修は職員によって差があり、今後はさらに参加を促す様、教員それぞれの目標を定めて取り組んでいきたい。
コメント			
職業実践専門課程への申請に伴い、計画的な教員の研修が必要となる。今後各課程の方向性を再検討し、教員一人一人が目標を持ち各自がさらに能力を伸ばし教育の質を高めていきたい。			

4. 学修成果

評価項目	評価	評価内容	課題
生活支援の充実化は図れたか。	4	各種公的奨学制度を案内し、急な家庭の事情の変化などにも相談に乗っている。経済的な理由で専攻科に進学出来ない学生に対して特待生制度を活用している。	家庭の事情によりアルバイトに多くの時間を割く学生も多く、学校との両立が出来る様に学生と密にコミュニケーションをとることが求められる。
教育支援の充実化は図れたか。	4	全教室Wi-Fiの環境が整備され、授業内で積極的に利用している。iPadの活用により、書類の配布、課題の提出などオンラインの活用が進んでいる。	iPadを利用する事でかなりのペーパーレス化が進んだが、アナログの良い部分は残し、さらにデジタル化を進めて行きたい。
就職支援の充実化は図れたか。	3	企業の求人状況は回復の傾向にある。キャリアセンターと担任が連携して、就職指導をより密に進めてきた。	就職活動の意欲が低い学生に対し、どう意欲を高める指導をしていくかが課題となっている。
コメント			
高等教育無償化については申請が通ったので経済的に学習の継続が困難な学生に対して周知していきたい。			

5. 学生支援

評価項目	評価	評価内容	課題
退学率の客観的数値(前年度比較)は改善したか。	2	昨年度に対し、退学率が上がってしまった。入学の動機づけが低い1年生の退学が目立った。精神的に不安を抱えている学生も多い。	どうやって学習に対する意識を高めて、メンタルケアをしていくかを検討する。
心理検査(ハイパーQU)から得られた情報は適切に活用できたか。	4	ハイパーQUの結果はある程度学生たちの満足度が確認できるため、満足度の低い学生の様子を気を付けて見守っている。	情報量が多いため、繰り返し内容を確認して見直し活用してゆく必要がある。
学生のメンタルヘルス対応は積極的に取り組めたか。	4	専用のメンタルヘルス相談窓口を設けている。さらに少人数クラスで担任制を取っており、一人一人と話をする機会を多く持つようにしている。	しっかり話を聞く時間を確保していく必要がある。
卒業生への支援体制はあるか。	4	同窓会費用で卒業生の活躍を支援している。卒業生が転職や仕事についての相談に来た際には、相談や求人を紹介している。	同窓会を組織化し、住所変更等連絡が取れるように卒業生サイトを活用したい。
学生情報の教職員間での共有は効果的に行えたか。	4	毎週各課程ごとに会議を開き、共通課題や学生間の問題を共有している。	会議時間が長くなりがちなので問題点を絞り、効率よく会議を進めてゆきたい。
保護者との連携は適切だったか。	4	欠席が続く場合は保護者に電話連絡をして状況を説明し、家庭からの協力もお願いしている。教務からの事務的な連絡に関しては、メールにて一斉送信し、共有を図っている。	保護者への連絡は、夜遅い時間や休日しか取れない場合が多い。連絡がつかない場合も多く、その際の対策を検討したい。
<p>コメント</p> <p>心の問題を抱えている学生の対応は大変難しい。しかし中学、高校時代に問題を抱え毎日登校していなかった学生が、目標をもって入学し楽しんで通学している学生も少なくない。精神的に不安定になる学生もいるが話を聞くことで解決できる場合もあり、本学の強みでもある少人数制を活かして一人一人としっかりコミュニケーションを取ってゆきたい。</p>			

6. 教育環境

評価項目	評価	評価内容	課題
卒業生・在校生・学校間のネットワーク構築への取り組みについて進捗・改善は見られたか。	3	キャリアマップを通して在校生と連絡のやり取りや相談を受けている。卒業生からもキャリアセンターに連絡が入り、相談を受けている。	在校生はキャリアマップを頻繁に確認する習慣がついているが、卒業生の活用はまだ多くない。別の連絡手段を検討するタイミングにきている。
施設・設備は、教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	教室内のマシン、アイロンは毎年点検している。教室のWi-Fi環境の整備を行った。	設置している学生用ロッカー類を整備したい。
<p>コメント</p> <p>キャリアマップを導入したものの、卒業生との連絡手段としては有効ではない。学園として何か別の連絡手段を講じる必要性を感じる。それを以て、卒業後も学校との関係が途切れないようにしていきたい。</p>			

7. 学生の受入れ募集

評価項目	評価	評価内容	課題
数値目標(入学生数80名)は達成できたか。	2	オープンキャンパス参加者数が減った影響もあり、取り込み率は上がったものの、入学生数に関してはわずかながら数値目標に届かなかった。	WEBプロモーションからのOCへの参加率を高め、数値目標を達成させる。
OC参加者の増加は達成できたか。	2	感染対策をしっかりと行いOCを実施できたが、参加者数は昨年と比較して減少した。	教員も営業力をつけ、ガイダンスや模擬授業を通してOCに導けるようなスキルが身に付いてきた。今後も質の向上を図りたい。
OCからの取り込み率は向上できたか。	4	昨年と比較し、取り込み率が向上した。毎回在校生がとても良くOC参加者と接してくれ、良い雰囲気作りで効果的な役割を担ってくれている。	OCの参加者が他校と迷っているときに、決定打となるような魅力を考え伝える必要がある。
学生募集における学校の訴求ポイントについて広報と協議の上で決められたか。	4	今年度新たに各科で売りに出来る内容を積極的に発信していくため、広報と話し合い広めている。	引き続き、もっと本校の魅力をSNSで見てもらえるような工夫を検討していく。
広報物の訴求の一貫性を図れたか。	4	毎月送っているDMの内容を少しずつ変化させより多くOCに参加してもらえるよう取り組んでいる。	効果的なDMの見え方を今後も検討していく必要がある。
広報物の制作にあたり、学校と広報とで意見交換が図られたか。	4	広報担当者は毎朝朝礼に出席し校内の様子を知り、度々職員室に訪れて情報共有やお互いの問題点を話し合っている。	広報物の確認の時間が短いので、余裕をもって制作してゆきたい。
広報担当スタッフとの連携を強化できたか。	4	OC当日の朝礼で教員全員で参加者の情報を共有し、次の日の朝礼で結果を報告している。その都度問題点を解決している。	もっと学校の魅力が発信できるように話し合い共有してゆきたい。
OC時の参加者対応スキルの向上は図れたか。	4	参加者への対応は学生がマンツーマンで指導し、グループ分けして教員が見守っている。学生は指導するために実習の練習し、当日は自信をもって対応してくれている。	学生リーダーが毎回全体を回して頑張ってくれているが、もっと元気よく自分から言葉を発信してゆけるように指導してゆきたい。
OCの結果等の分析や、コース内容のブラッシュアップ等について学校と広報とで十分な意見交換ができたか。	4	広報と毎回参加者のアンケート結果を共有しそれをもとに次回のOCの参考にしている。OCの内容で参加者の増員が見込まれるので時期と内容を話し合っている。	OCの参加者はほとんどが高校生なのでもっと高校生の目線になって内容を検討していく必要がある。高校生の求めているものは何かリサーチしてゆきたい。
SNS等、学校の認知PRは適切に行えたか。	4	毎日インスタグラムを更新し、外部の人々に学校を知ってもらえるように努めている。	SNSのフォロワーを増やす方法を構築してゆきたい。
コメント			
感染症による規制の中、十分気を付けて対面でのOCを実施できた。もっと本学を知らない高校生がホームページやSNSを見てくれるような広報の仕方を検討していく必要がある。今後どうやって本学の良さを外部に発信できるか検討してゆきたい。			

8. 財務

評価項目	評価	評価内容	課題
経営感覚の教職員間での共有は図れたか。	3	全員で学校の収支状況を共有し状況が悪いことは全員自覚している。学生数を増やし支出を抑える意識を持っている。	外にアピール出来る新しいことを如何に支出を抑えて、かつ教育の質を下げない様に行うか考える必要がある。
財務改善への取り組みは推進できたか。	4	決算後に管理職に対して数値の説明を行った。管理職は必要に応じて他の教職員と情報の共有を行った。	具体的な収支改善への取り組みについて、教職員から主体的な提案があるような空気の醸成に努めたい。
<p>コメント</p> <p>22年度は収支はマイナスであった。いかに学生数を確保するか、支出を減らしつつ教育内容を充実させるか、教員一人一人の課題として取り組みたい。</p>			

9.法令等の遵守

評価項目	評価	評価内容	課題
コンプライアンス意識を再確認できたか。	4	「コンプライアンス規程」を明文化し、策定後に教職員間に意識の共有を図った。	現代の社会情勢を鑑み、引き続き必要に応じて改訂し、共有を図る。
自己評価の結果を公開しているか	4	自己評価を行い、現状の実態の把握・理解、問題点の改善に努めている。	今後も適切な情報公開に取り組んでいく。
<p>コメント</p> <p>今後も財務情報や自己評価報告書等学校情報について公開していき、適切な学校運営を継続させていく。</p>			

10.社会貢献・地域貢献

評価項目	評価	評価内容	課題
地域や地方公共団体と連携し、受託等を積極的に実施しているか。	3	地域主催の催事には可能な範囲で参加している。WEBショップなどで一般向けの販売を行っている。	感染症が落ち着いたため、従来通りイベントを実施できた。次年度も継続していきたい。
<p>コメント</p> <p>今年度も子供服販売を対面で行い、地域の方々の好評を得た。丸の内ファッションウィーク実行委員会主催（代表企業：三菱地所株式会社）の丸の内の活性化イベントMARUNOUCHI FASHION WEEK 2023の「FUTURE DESIGNER COLLECTION」ファッションショーや、江戸川区後援によるアリオ葛西でのアップサイクルファッションショーに作品を提供した。</p>			

11.国際交流

評価項目	評価	評価内容	課題
留学生受入れ、学習・生活指導等について適切な体制が整備されているか。	4	留学生専門職員を配置し、オープンキャンパス参加時には適切な対応をしている。	留学生の受入れから学習支援等、適切な対応を継続していきたい。
<p>コメント</p> <p>留学生対応の専門の職員がいるため、日本語の問題や生活面での不安等についても対応ができています。今後も適切な対応を継続させていく。</p>			

おわりに

今年度は感染症が落ち着いたため、対面をメインにリモート授業も併用して、カリキュラムの遅延等が起きることなく年度を終了できた。

種々の影響は受けつつも、学校としてきちんとした対応が出来たと考えている。今後も業界に必要とされる人材育成のため、教職員が協力し合い、学生募集・教育・就職・卒業と学生のための教育環境作りに邁進する。